江田島中学校区　　令和２年　７月１７日

小中連携道徳通信２号

発行者：江田島中学校区 道徳教育推進リーダー 川中　健太

第２回校区研修会を行いました

７月８日（水）に，広島県教育委員会より指導主事をお招きし，江田島中学校にて第２回校区研修会を行いました。本号では，そこでの実践や研究協議の様子，事後指導の内容についてお伝えします。

研究授業の紹介

（主題名）本当の友達　Ｂ（８）【友情，信頼】
（教材名）「五月の風-ミカ-」『中学道徳　あすを生きる　２』（日本文教出版）
授業者　市川　千晶　教諭

＜授業のポイント＞

1. 導入でアンケート結果を提示し，実態を共有する。（ＩＣＴの活用）
2. 分割範読を行い，ミカの葛藤場面に焦点を当てて考えさせる。（ネームプレートを活用）
3. 中心発問以降で，補助発問を繰り返し行い，本時の主題「友情」について考えを深めさせる。

【ＩＣＴの活用】

＜板書＞

＜生徒のワークシートの記述＞

発問　相手にとって，心から信頼される友達になるためには，どんなことが大切だと思いますか。

- 相手の立場になったつもりで気持ちを想像してみることが大切。
- 常に相手のことを思って行動し，約束や決まり事を守ることが大切。
- 相手の気持ちを考えて，自分の意志で決断し，行動することが大切。
- 信頼を壊すのは一瞬であり，一度大きく信頼を失うと，その穴はなかなか埋められない。でもそれをどう埋めていけるかを考え，また一から信頼を積み上げていくことが大切。
- 自分から相手を頼ることも大切。

研究協議の主な内容

良かった点

- 導入でアンケート結果を提示し，自分事として考えさせることができた。
- ネームプレートを活用し，考えを明確にすることができていた。それが，中心発問以降で考えを深めることにつながった。
- 中心発問の後の補助発問「二人の友情は深まったのだろうか」は，道徳的価値に対する考えを深めるきっかけになっていた。

改善点

- ネームプレートを活用したのはよかったが，それを展開後半で使っていきたかった。考えを明確にしただけではもったいなかった。
- 中心発問までが，さらっと進んでしまった。特に，ネームプレートを貼らせた部分では，「本当？」「どうして？」など，揺さぶりがあってもよかったのではないか。
- 展開後段の補助発問は，当たり前のことを聞いているものもあった。もう少し工夫があってもよかった。
- 内容項目の「友情」「信頼」どちらにも触れており，ねらいがぶれていたのではないか。

広島県教育委員会　義務教育指導課　藤本 哲平　指導主事より

- 道徳科の授業での学び方として，子供たちとどんな約束をするかで，取組の深まりも変わってくる。例えば，プリントを配布する時に「よろしくお願いします」を必ず言う取組や，生徒同士が意見を自由に言い合える雰囲気を大切にする取組なども考えられる。
- 道徳科の評価は，指導に生かされ，児童生徒の成長につながるものでなくてはならない。
- 道徳科の評価は，達成度ではなく，児童生徒の学びの姿を評価するものである。（①多面的・多角的な見方へと発展しているか②道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかの２点を評価していくことが大切である）

西部教育事務所　教育指導課　宮岡 大輔　指導主事より

- 指導案にも示されているが，発達段階ごとの指導目標を意識して取り組んでいるのがよい。
- Before→After の姿や授業中の評価計画を明確にすることは，ねらいをぶらさず授業をしていけるので，とてもよい取組である。
- 本時では，中学校の「友情，信頼」の指導目標までもう少しだった。「信頼関係はすぐ崩れるが，再度構築していくことが大切」という意見をもっと掘り下げていければよかった。

江田島市教育委員会　学校教育課　河野 諭恵　主任指導主事より

- 一方的な信頼から互いに信頼し合う点をどう押さえていくかが本時のポイントであった。
- 学級経営◎。安心した雰囲気の中で授業が進んでおり，日ごろの指導の積み重ねを垣間見ることができた。
- Ｔ１Ｔ２のコンビネーションがよかった。